

2011年4月21日

2010年度秋期授業アンケート・コメントのまとめ

FD委員会副委員長
高田 実

はじめに

授業アンケートの結果を、全体としてみると数字としては高得点の結果となっており、また自由記述欄も含めたアンケート結果について、各教員からは真摯なコメントをいただいた。また、これまで提起してきた論点を意識したコメントも寄せられている。こうしたこれまでの実績を踏まえつつ、さらに今後改善すべき点、あるいはそれに資する有益なコメントをここでは紹介することにしたい。

1 数値データについて

アンケート全体の数値データは以下のとおりである。13、14項目の総合的な授業評価は4.1点を超え、一定の水準に達している。しかし、やはり予習・復習に関する項目は2点台と低い(文末図表参照)。

2 回収率について

今回のアンケート回収率は以下のとおりである。

	受講者数	回答者数	回答率
全体	19,445	10,479	53.9%
座学科目	14,013	6,219	44.4%
英語科目	2,666	2,147	80.5%
独語科目	26	19	73.1%
仏語科目	36	27	75.0%
中国語科目	606	450	74.3%
朝鮮語科目	208	190	91.3%
日本語科目	118	117	99.2%
コンピュータ実習科目	290	209	72.1%
スポーツ実践科目	523	395	75.5%
教養演習科目	77	66	85.7%
専門演習科目	882	640	72.6%

前回は指摘しておいたように、アンケートの回収率が特に講義科目については平均で

50%を割る水準にあった。もちろん、これが出席状態をそのまま反映しているかどうか即断はできない。授業には出席していてもアンケートを書かないまま帰る学生がいたり、履修登録だけして実際に授業に出席していない学生が多い場合もある。しかし、アンケート回収率と出席率との間に、一定の相関関係がある場合もあるだろう。これについて、今回は回収率が50%を割る場合は、特別にコメントを求めた。

次のような回答が寄せられた。「正直なところ、なぜこんなに回収率が悪いかわからない、驚いている」という感想も多かったし、1時限目の授業だったからという事実の指摘だけを書いたものもあった。しかし、一番多かったのは、履修登録だけして、実際には授業に出ていない学生が多いという意見であった。また、近年多くなっているのが「3, 4年生の科目履修者が多く、就職活動のため出席できない学生が多かった」という主旨の回答であった。

また、回収率の問題にとどまらず、大学における出席管理のあり方にまで踏み込んだご意見もあった。回収率と出席率との正の相関関係を前提としつつも、通常から出席をとっていないし、そもそも大学において出席をとることは望ましくないという「あるべき論」からの反論があった。出席をとって、本気で勉強する気のない学生が多く出席すれば、まじめに勉強する学生にかえって迷惑をかける。授業の内容理解と出席率とは比例しない、などであった。また、マスプロ授業が前提となっており、実態として、全員が出席すればうるさくて授業が成り立たない、大規模クラス解消が先ではないかという制度に対する批判もあった。逆に、学生の一部には出席をとってほしいという声があることも紹介されているコメントもあった。

大学が大衆化し、大学進学者がマジョリティになるなかで、大学における授業への出席と学びの関係をどのように考えたらよいか、大学の置かれた現実から問い返しが必要であろう。われわれは3割から4割の「まじめな」学生だけを相手にすればいいのか、「学び」の契機とは何か、大学の置かれた現実を前にして、改めて問い返してみる必要がある。日本社会の今後を担う有為な若者を育てる社会的使命を負う大学人として、大学の現実を直視しつつ、真剣な問い直しが求められているのではないだろうか。

3 教員と学生の良好なコミュニケーションに基づく授業展開

学生から高い評価を受け、かつ教員も満足している授業実践は、教員と学生が車の両輪のように手を相携えて前に進むというものであった。教員が課題を提示しつつとそれに学生側が積極的に呼応して、一定の知的「緊張感」のある授業が展開できた時には、双方が高い満足度を示している。単に授業だけではなく、就職相談、生活指導、その他の付き合いなど、多面的な学生との関係性のなかで、よりよい授業ができている場合に満足度が高いようであった。

これに関連して、課題は教員が提起しつつも、問題解決の方法については、学生自らがグループ学習などを通じて、自発的にその方法を見出し、一定の成果をあげている事例も

報告された。例えば、ゼミなどでテキストを正確に読むだけでなく、学生自身がわからない言葉の「単語帳」をつくりあげようという目標を作り、それを1年間やりとおすことでそれなりの蓄積ができた事例もあった。また、逆に古典的な方法ではあるが、できるだけ多くの名著を読ませ、それぞれの本について逐一書評を書かせる(合計で2万字にも及ぶ)。それに対して教員が細かく添削し、指導していくことで、学生自身も本を読む力、文章を書く力、その背後にある論理的な思考が身についたと満足した例もある。あるいは、細かな指導で、「半年間で英語力がついた」と回答する学生がでてきた事例もあった。さらに、講義の後、数名の学生が自然発生的に車座になって、授業で話された内容について30~40分も議論し続けるケースも報告されている。その他、もっと紹介すべき例は多々あるが、個々の教員がそれぞれの方法で学生と向き合い、対話の中で自らにあった教育方法を模索しながら実践することで、すばらしい教育成果をあげていることがわかった。

各教員それぞれに合った方法で、教育成果を生みだし、その経験を交流することが求められる。FD委員会としても、ニュースレターなどを通じてその具体例を紹介していきたい。

4 授業、テキストが「難しい」と感じる学生が増えている

今回のコメントを通じてみえてくる特徴のひとつは、学生が授業について「難しい」あるいは「難しすぎる」と書いていることを指摘する教員が増えている点である。とくに、テキストの難しさを強調する学生が増えていることを多くの先生方が指摘されていた。反対に、テキストの選択がよかったので、うまく授業が展開できたという意見も寄せられた。学生の実態を前にして、どのような教科書が効果的か意見を交換することも必要だろう。

学力低下については、一部の先生からは、これ以上簡単にすると大学の授業として成り立たないという悲鳴にも近い声もあげられていた。それとあわせて、同じ授業でも、「難しすぎる」と「やさしすぎる」の両極端の評価がなされていることに戸惑われている先生もおられた。英語教育の場合には、経済学科と国際商学科で英語力が「格段」に違うので対応しづらかったという声もあった。また、こうした学力低下のなかで、リメディアル教育に取り組む必要があることを強調する意見もあった。さらに、積み重ね型の科目の場合、それ以前に履修しておくべき科目を履修条件として指定したらどうかという提案もあった。

学生の学力格差を指摘する声は、この間一貫して聞かれている。手間のかかる問題ではあるが、学生の実態をよく観察し、本学にあった学力格差対策を模索していく必要がある。英語では今年からプレイスメント・テストを導入したが、その他の科目群についても、科目の性格付けなども合わせて、必要なところでは実態に応じた対策を検討する必要があるだろう。

5 自主学習の不足について

アンケート項目を数値で表した時、講義科目にかかわらず、演習科目でも自主学習の不足が顕著であることをこの間ずっと指摘してきた。これについては、それぞれの先生が相

当に意識していただき、それぞれに取り組みをしていただいた。一番多かったのは、課題や宿題を課している、あるいは課すことにしたというコメントであった。具体的な課題を示しつつ、学生に少しでも学ぶ雰囲気を作ろうとしている努力の姿勢が見て取れた。

また、このアンケート項目については、少なからぬ先生から、予習・復習に関してはかなりの強制力をもって学生に課しており、実際に学生もその課題を毎回実施してきているので、アンケートの質問の仕方が悪いのではないかというご指摘を受けた。これについては、数年間アンケート項目は変えないという合意をえているので、即座に実施はできないが、実質的な方法を検討したい。たとえば、他大学でも実施しているように、共通アンケートと各教員の自由アンケートを併用するという方法である。前者については、回収するが、後者については教員が持ち帰り自分の授業改善に役立てるという方法である。アンケート項目には他の点でも批判があるので、他大学の例を参考にして改善したい。

なお、制度にかかわる意見としては、学生に予習・復習をさせるためには要卒単位数を減らし「1つの科目に集中できる環境(時間)」を作ったり、レポートなどを細かく添削して返却できるようにするために、授業補助員をつけるべきではないかという意見もあった。

6 フィールドワークの積極的活用について

学生の満足度の高い実践として、フィールドワークの活用があった。企業訪問、史跡探訪、グッズ開発、地域観察など、それぞれの先生の得意分野に応じて、教室をでて現場から学ぶという方法も効果的なやり方のような。

ただ一口に「フィールドワーク」といっても、実際に学習成果をあげるためには準備が必要だ。幸い、本学にはこの分野に長けた先生がおられるので、その経験をニューズレターや研修会を通じて、みなさんにお伝えしたい。

7 専門演習(卒論指導)と就職活動について

専門演習については、特に就職活動の影響が大きく、とりわけ春学期は学生の集まりが悪いことが共通して指摘されていた。本学カリキュラムの完成形態たる卒論の位置づけ、その指導のあり方と合わせて、どのような対応をしたらよいか、一度議論することが必要ではないだろうか。

制度に関しては、専門演習、の計8単位にして卒業研究4単位を付加する、また公開の卒論報告会を義務化するというカリキュラム改革を行ったらどうかというご提案もあった。

8 学生の遅刻の増大について

今回のアンケートで増えている指摘は、学生の遅刻の増大である。なかにはその理由を問いただした先生もおられるようである。それによれば、深夜アルバイトの学生が朝起きられないケースが多いようだ。

9 学生の思わぬコメントについて

教員のコメントを見ると、学生の思わぬ文章に直面し、心外であるとか、驚いた、幼稚化しているという反応がなされている。あまり授業にもでていない無責任なアンケート記述かもしれないし、内容にどこまで信ぴょう性があるか疑わしいものも多いが、そのようなことを書く学生が本学にもいる、あるいは本学の学生のなかにも出てきたという事実自体はしっかりと認識しておかねばならないであろう。

10 機器、エアコンの不具合について

例年通り、AV 機器の不具合、エアコンへの不満は多かった。関係部署に伝えている。教室の修繕は順次行われる予定であるし、教室の机やいすの入れ替えを行うとともに、今後とも継続的に修繕が計画されている。エアコンについては、温度調整が可能になった。プロジェクタについては、今期3台増設された。また、実習室パソコンの OS、アプリケーションは更新される予定である。

11 設備・施設に関する要望への回答について

次頁に、関係部署からの回答を掲載しているので、ご参照いただきたい。

おわりに

以上は FD 副委員長の責任でまとめた論点であるが、その他個々の教員感じている問題点もあるかと思う。各関係部署でご検討いただき、具体的な教育改善に役立てていただくことを願う。授業アンケートが効果を持つのは、アンケートを活用し、教育の環境、内容、方法が実際に改善されたと学生たちが実感する時である。少しずつでも本学の教育が改善されるために、この分析が活用されれば幸甚である。

【設備・施設の改善に対する要望について】
設備コメントに対しての担当部署からの回答(教務)

回答

・A・B講義棟の1人掛け座席(113、114、117、118、124、125、236教室)については、3月末に机といすを新しくしました。これまでよりも机の盤面が広くなりました。また一部教室では、座席配置も変えていますので、歩きやすくなっていると思います。

・チョークについては、教員控え室に配置していましたが、特に大教室でチョークがないというご意見が多かったため、3月末に各教室にもチョークを設置しました。補充についてはこれまでどおり、教員控え室からとなりますが、定期的に使用状況を確認していきたいと思います。

・黒板については、平成21年度から塗り替え作業を進めており、既に大教室や中小教室は修繕を終えています。平成23年度はゼミ室を中心に塗り替え修繕を実施していきます。

・教室の機器については、すべての要望に応えられるものではありませんが、今後、更新を迎える教室については、できる限り学生の皆さんや、授業を担当される先生方がどのような機器を望まれているのかについて、導入前にご意見を伺いながら検討したいと思っています。既存の設備については、契約年限が定まっており、すぐに変更できるものではありませんので、マニュアルの徹底をするなど、先生方にスムーズに使っていただけるよう善処したいと思います。

・プロジェクター等については、各教室設置のもの以外に、貸出用プロジェクター(授業用)があります。平成23年度からはこれらの貸出用を3台増設して、より多くの講義で使っていただけるよう改善しました。

・マイクのハウリングについては、メインマイクとサブ(ハンディ・ピン)の距離や音量調整などによるものと考えられます。毎回同様の状況であれば、先生方にもお尋ねした上で再調整するなどの対応をします。

・受講者数と教室のマッチングについては、教務班でも履修登録ごとに調整・改善をしていますが、教室収容人数と履修登録者数、時間割上の講義数など、様々な要因で、必ずしも最適とは言えない場合もあるかと思っています。来年度からは、履修登録期間の短縮や受講者数制限などにより、大教室に入りきれないといった講義は少なくなります。

設備コメントに対しての担当部署からの回答(庶務)

回答
<p>講義棟の机・椅子について</p> <ul style="list-style-type: none">・損傷の激しい机・椅子については、3月中に入れ替え済み。今後とも計画的に入れ替え予定。
<p>空調について</p> <ul style="list-style-type: none">・A講義棟については、各教室で温度調節できるように変更済み。
<p>時計の設置について</p> <ul style="list-style-type: none">・時間管理については各自でお願いしたい。

設備コメントに対しての担当部署からの回答(経営企画)

回答
<p>実習室の設備について</p> <p>平成 23 年 10 月ごろに、コンピュータ実習室の機器を更新する予定です。</p> <p>それに伴い、実習室パソコンも新しくなり、OS も WindowsXP から Windows7 へ変わります。</p> <p>また、要望の多かった Microsoft Office についても、最新の 2010 を導入します。</p> <p>ネットワーク遅延についても、改善される見込みです。</p> <p>一太郎について、使用する機会が減っており、Word で代用が効く場面が多いため、導入の予定はありません。</p> <p>Delphi について、ライセンス数の問題があるため、従来通りの運用とさせていただきます。</p>
<p>実習室の開室日時について</p> <p>土日実習室を開けてほしいとの要望がありましたが、パソコン等の専門的な物品を取り扱う教室の性質上、職員が手薄な土日では、トラブルが起こった場合の対応が難しく、利用者に対して満足いただけるサービスを提供できないため、現在、土日の実習室開放の予定はありません。</p>

2010年度後期 授業アンケート(全体)

下関市立大学

受講者数	19445
回答者数	10479

学年				
1年	2年	3年	4年	無効回答
3996	3339	2197	783	164

学科		
経済学科	国際商学科	無効回答
4974	5310	195

あなた自身について										
番号	設問文	当科目の標準偏差	当科目の平均点	各マークの回答数					有効回答	無効回答
				5	4	3	2	1		
				100%	90-99%	70-89%	50-69%	49%以下		
1	この授業にはどれくらい出席しましたか。	0.84	4.05	3430	4662	2023	242	116	10473	6
2	この授業に十分に予習あるいは復習をしながら臨みましたか。	1.27	2.78	1020	2118	3288	1642	2392	10460	19

授業運営について										
3	この授業の開始時間は守られていましたか。	0.86	4.28	5123	3745	1177	307	118	10470	9
4	この授業は、基本的にシラバス(評価方法を含む)にそって運営されていましたか。	0.83	4.27	4909	3806	1480	177	92	10464	15
5	板書やビジュアル資料などはわかりやすかったですか。	1.03	3.97	3894	3564	2052	657	293	10460	19
6	声の大きさ、明瞭さ、速さなどの点で、教員の話し方は聞き取りやすいものでしたか。	0.94	4.19	4859	3414	1554	412	171	10410	69
7	授業内容の難易度について、どのように感じましたか。	×	×	932	3494	5739	214	88	10467	12
8	学生の反応や受けとめ方などに配慮しながら授業は進められていましたか。	0.94	4.02	3810	3884	2141	461	171	10467	12
9	教科書等を含め授業中に用いられた教材や資料は役に立ちましたか。	0.94	4.04	3930	3778	2200	380	174	10462	17
10	教員は、私語を注意するなど、静かな授業環境を保つための努力をしていましたか。	0.88	4.20	4684	3613	1813	241	113	10464	15
11	授業に対する教員の熱意は感じられましたか。	0.83	4.30	5187	3593	1425	167	97	10469	10
12	担当教員は質問しやすい雰囲気をつくるとともに、質問や相談は丁寧に対応していましたか。	0.90	4.16	4555	3502	1992	266	132	10447	32

総合評価について										
13	授業を履修して、この授業科目への関心を深めることができましたか。	0.92	4.11	4132	3800	1888	322	171	10313	166
14	総合的に見てこの授業に満足できましたか。	0.93	4.10	4141	3780	1879	329	182	10311	168

